

2021 年 4 月吉日

会 員 各 位

ユニシス研究会

東 北 支 部

2021 年度『東北支部研究活動』メンバー募集のご案内

拝啓 日頃よりユニシス研究会活動にご協力、ご支援をいただき厚くお礼申し上げます。

昨年からの新型コロナウイルス感染は未だ収束が見られず会員各位におかれましては日々の活動に制限がある中、努力を重ねられていることと存じます。

ユニシス研究会では、会員の皆様が日常業務の中で抱えている課題やこれからの I T を駆使した新たな働き方、A I などのテクノロジー活用をテーマに、会員同士や日本ユニシスグループ社員との情報・意見交換の場、また相互研鑽の場として、各種の研究活動を推進しています。

今年度の研究活動は昨年度と同様に、新型コロナウイルスによる影響を考慮し、Web 会議を主体とした非接触型の活動を中心としつつ、状況を見ながら可能な範囲で対面での活動も取り入れることを検討できればと考えております。Web 会議ならではの移動時間削減、テレワークによる参加のしやすさなどプラス面を積極的に活用し工夫しながらご自身の成長へつなげていただきたいと思います。

このような状況だからこそできる活動を通じて自社へ活動成果をしっかりと持ち帰っていただけるように、研究グループ毎に日本ユニシスグループ社員によるアドバイザー制度や運営メンバー、事務局によるフォローをしっかりと行っていきます。

新しい日常（ニューノーマル）におけるビジネスヒント発掘や企業の枠を超えた新しい交流の場、人材育成の場として研究活動をご活用いただきたく、多数のご参加をお待ち申し上げます。

敬具

【 添付資料 】

1. 「東北支部研究活動」メンバー募集・運営要領
2. ユニシス研究会「東北支部研究活動」参加申込書
3. 2021 年度研究活動 東北支部活動テーマ案（ご参考）

【 添付資料 1 】

「東北支部研究活動」メンバー募集・運営要項

1. 参加資格

ユニシス研究会会員企業（会員企業の方であればどなたでも参加いただけます）

2. 研究テーマ

活動開始後にメンバー間で研究したいテーマを協議のうえ、決定いただきます。

テーマ案は添付資料 3「2021 年度研究活動 東北支部活動テーマ案」をご参照ください。

＜ご参考：事務局からのテーマ候補案＞

* AI・RPA * DX 推進 * 人材育成 * メンタルサポート

3. 参加費

■今年度研究活動費として、1 企業¥20,000 を申し受けます。

* 参加人数にかかわらず 1 企業あたり¥20,000 です。

* 参加メンバー確定後、「連絡責任者」へ参加費用をご請求させていただきます。

尚、請求書送付先が連絡責任者と異なる場合は申し込みの際に連絡欄にご記入願います。

■その他交通費・旅費等は、参加者の負担とさせていただきます。

4. グループの構成

■参加メンバー5 名以上 10 名以下をもって 1 グループを構成します。

■構成メンバーの中から、「リーダー」「サブリーダー」を互選することとします。

■活動には、日本ユニシスグループより選出されたアドバイザーが参加し、研究活動を支援します。

5. 年間スケジュール

開催予定日	開催内容
5 月 25 日（火） or 26 日（水） or 27 日（木）	発足式 & 第 1 回会合予定
8 月下旬～9 月上旬頃	中間報告：リーダー、サブリーダー対象
1 月末 予定	活動報告書提出
2 月上旬～中旬 予定	東北支部発表会
3 月 4 日（金）	全国発表会

6. 活動期間と会合回数

■活動期間は本年 5 月から翌年 2 月末までとします。（※全国発表会を除く）

■期間中、原則月 1～2 回の会合（半日）を持ちますが、詳細は別途グループ運営の中で決定します。

■第 1 回目の会合は発足式を兼ね、**2021 年 5 月 25 日（火） or 26 日（水） or 27 日（木）の 15:00～17:00** を予定しております。（Teams 会議を利用）

正式にはメンバー確定後、各メンバーのスケジュールを調整しご連絡いたします。

- テーマ選定にあたっては、テーマに関しての知見取得に時間を費やし、ストーリーを組み立てられなくならないようグループ内で工夫していただき、アドバイザーの助言を得ながら進めてください。
- 来年1月下旬に活動成果を「研究活動報告書」として提出していただきます。
 - * 研究活動運営委員の皆様により、活動報告書の表現力・構成力はもとより、実用性・有効性、先進性・独創性・独自性などの面を考慮して査読審査をさせていただきます。
- 来年3月4日（金）に「研究活動成果発表会」としてグループメンバー以外の方々に向けて発表をしていただきます。（新型コロナウイルスの感染状況により発表形態は変更になる場合があります）

また、各グループリーダー、サブリーダーを対象に8月下旬から9月上旬にグループの中間報告をしていただく予定です。

7. 活動運営について

- 研究活動の企画・運営は参加メンバーの自主運営とします。
- 会合はWeb会議を主体としながら、状況によって対面での会議もご検討いただきます。対面会議の場合は、日本ユニシス(株)東北支店及び参加メンバーの会社施設等を利用します。
- 研究成果は、「研究活動発表会」や「全国カンファレンス」等で発表していただくことがあります。
- 特に優れた成果には、「エッカート賞」やその他入賞制度の受賞候補として推薦されます。
- ご報告いただいた研究活動成果（研究活動報告書、プレゼン資料その他発表資料を含みます。）の著作権は著作者に帰属するものとします。但し、著作者は、ユニシス研究会が情報発信する機関誌やWebサイトにおいて、著作者の研究活動成果の掲載・配布に関する権利（個人名・会社名・所属先の公開を含みます。）をユニシス研究会に無償で許諾するものとします。

8. 申込方法

添付資料2の「参加申込書」にご記入の上、**5月18日(火)迄にメール**にてお送りください。

9. お問い合わせ先

日本ユニシス（株）東北支店内
 ユニシス研究会東北支部事務局 清水・川島
 〒980-0811 仙台市青葉区一番町 4-1-25 東二番丁スクエア
 E-mail: touhoku-box@ml.unisys.co.jp
 TEL:022-706-2503 FAX:022-224-2981

以上



【添付資料 2】

ユニシス研究会東北支部事務局 行

電子メール : touhoku-box@ml.unisys.co.jp

ユニシス研究会「東北支部研究活動」参加申込書

■【個人情報の取り扱いについて】

【個人情報のお取り扱いについて】ご記入いただくお客さまの個人情報は、日本ユニシス株式会社及びグループ企業並びにユニシス研究会が、1)本セミナーに関する連絡・確認、2)関連製品・サービスに関する情報提供、3)イベント・セミナーなどのご案内および4)マーケティングの目的で利用させていただきます。お客さまの個人情報については、当社の「個人情報保護基本方針」に従い取扱うものとし、適切な管理と必要な保護を行います。なお、個人情報の開示、訂正、削除、情報提供の停止等のお申し出、その他ご質問がございましたら、下記の問合せ先までご連絡ください。

- * 日本ユニシス個人情報保護基本方針 : <https://www.unisys.co.jp/com/privacy/>
 - * 日本ユニシスグループ企業及び各社個人情報保護方針 : <https://www.unisys.co.jp/com/group.html>
 - * 当社グループ企業への個人情報の提供、共同利用について https://www.unisys.co.jp/com/privacy/o_group.html
 - * ユニシス研究会の個人情報について : <https://www.yuni-ken.gr.jp/privacy.html>
 - * 当社サイト上におけるCookieおよびWebビーコン、アクセスログについて: <https://www.unisys.co.jp/com/privacy/index.html#web>
- 上記の個人情報取り扱いについて同意頂けましたら、下記「個人情報の取り扱いに同意して申込む」のチェックをお願い致します。

☐ 個人情報の取り扱いに同意して申込む

【個人情報管理者】ユニシス研究会 事務局長

【お問い合わせ先】ユニシス研究会東北支部 事務局

〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-1-25 東二番丁スクエア

TEL : 022-706-2503 電子メール : touhoku-box@ml.unisys.co.jp

■【ご参加者】 ※複数名参加も可能です（2名以上ご参加の場合は本紙をコピーの上ご利用下さい。）

会員企業名			
電話番号			
フリガナ 参加者名		所 属 役職名	
メールアドレス			
発足式 & 第一回会合日	※15:00～17:00 を予定しております。 ※参加可能な日に○をお付けください。他のメンバー様のご予定と調整し、確定いたします。 5 月 25 日（火） ・ 5 月 26 日（水） ・ 5 月 27 日（木）		
連絡欄	※参加費請求書送付先のご変更等、連絡事項がございましたらご記入ください。		

2021年度研究活動 東北支部活動テーマ案（ご参考）

	キーワード	テーマタイトル（案）	活動内容（案）
1	働き方改革	働き方改革とワーケーション	テレワークの拡大により、仕事をする場所（自宅）が会社の所在地に近くである必要がない状況となりつつあるが、もう一歩進めたワーケーションの課題（技術面や運用面）を洗い出して解決することで働き方改革の推進に寄与する。
2	5 G	5 G/ローカル5G	5G対応のスマートフォンが各社から出揃ってきているが、5 G対応スマートフォンを利用した新しいビジネスの研究だけでなく、ローカル5 Gを利用した会社単位での新しい情報システム基盤の研究についても研究対象とする。
3	人材育成	オンライン教育	コロナ禍でオンライン教育の導入が加速し、メリットデメリットを体感する機会が増えた。小学校～大学、社会人向け、企業内の教育など、様々なシチュエーション、手法における技術面、運用面の課題を整理し解決策や有効性を高める方策を検討する。
4	デジタルマーケティング	デジタルでリアルな消費者行動の変化を捉える	社会構造のデジタル化に伴い、消費者行動が変化している。これに対応するためには今後の企業には、より強い、より多くの顧客とのエンゲージメントが重要となっている。現在成長しているビジネスモデルを研究することで、自社に適合する仕組みを検討していく。
5	DX推進	企業のデジタル変革事例から学ぶ推進策	デジタル庁が発足するなど、デジタル後進国の日本においてもようやく本格的にデジタル変革が始まっている。はやく自社でもデジタル変革を行うためにもこれまでの成功事例を研究することで社内での推進を促進させる方策を検討する。
6	withコロナのシステム開発プロジェクト	withコロナにおけるシステム開発のチームビルディング	これまで一か所に集約しての開発スタイルが中心であったが、地方にいるメンバーのリモート開発が可能となったことでプロジェクトチーム編成時の注意点や環境、意思疎通など様々な注意ポイントを洗い出し、実践に活用する。
7	eスポーツ	eスポーツによる地域創生	新たなスポーツとして注目されている「eスポーツ」。異業種参入などこれから大きなビジネスチャンスになっていく分野として注目されている「eスポーツ」をテーマに、具体的に分野を取り上げて実現までに至るアイデアを研究する。
8	AI	お試しから始めるAI活用	RPAやAI等、重要性や効果が期待されるIT技術があることは分かっているものの、二の足を踏む企業はまだ多いと思われる。また、安易に導入すると失敗してしまうことも、これらのある意味特徴でもある。このような中、安価なAI処理ボードが発売されたこともあり、初期検討のハードルは下がってきた。まずは基礎を体感＋理解し、それから徐々に商用サービスのPoCに移行することでも良いのではなかろうか。本研究を通じて簡易的なシステムを構築し、AI導入の注意点やポイントを学び、AI全体像の理解について考察を深める。
9	DevOps NoOps	新しい開発と運用の姿	開発プロセスは、早期稼働、低コストを目的に、ウォーターフォール型から、大きく変化している。一方、運用プロセスにおいては、開発・運用の分離を基本とし、開発プロセスの進化に追いついていない。DevOps、NoOpsを実現する上で、どのような体制、プロジェクトの進め方が必要となるかを検討する。
10	ICTによる地域経済活性化	地域の企業とICT	地域経済の活性化のため、ICTがどのような役割を果たし得るかを分析し、可能性を整理する。企業へのアンケート調査の結果や企業の先進的なICT利活用事例の分析を通じて、地域経済活性化に資する企業での実効的なICT利活用の在り方を検証する。
11	オンライン会議	同時双方向的なコミュニケーションの確立	・TeamsやZoomを使ったオンライン会議が急速に広まったが、コミュニケーションが一方通行になりがちで、意見を取り交わすことがなかなか難しい。 ・ホワイトボードに向かった議論等をバーチャルに行うことをイメージし、同時双方向的なオンライン会議のあり様を研究する。
12	V Rショッピング	withコロナ時代の新しいショッピングスタイルの研究	・V Rショッピングについては、従来の2次元のE Cサイトを超越する魅力からバルコやAmazon等、事例が増えていっている。 ・最新事例を調査し、より面白いビジネスアイデアの研究を行う。
13	ジオターゲティング広告	ジオターゲティング広告を使ったビジネスモデルの研究	・ジオターゲティング広告とは、スマートフォンで取得した位置情報データからターゲットを定め、そのターゲットに対してWEB広告を配信できるサービスのこと。 ・ネットから実店舗への来店に誘導するOtoO（Online to Offline）の施策としても有効であり、あらたなビジネスモデルの研究を行う。
14	都市O S	都市O Sによるスマートシティの拡大	・これまでも、スマートシティの取り組みは進められてきたが、実証の域を脱しきれない取り組みが多々ある。その裏側には、各地域がスマートシティのためのITシステムをバラバラに構築・運用し、データやサービスが地域間で連携していないため、常に初期開発と同等程度の実装費用が発生してしまうという要因があると考えられている。 ・これらの課題解決のための「都市O S」について、研究を行う。
15	SDGs	IT技術、DX技術を利用したSDGsへの連携・実現性	世間一般にも認知度が上がってきたキーワードであること。 世界規模なので、あまり大きな目標というかタイトルをつけるのは気が引ける部分があるが、何かSDGsの各目標に貢献できる、あるいは実現することで豊かな社会にならないか？といった部分をテーマにしてはどうか？
16	【S a a S】 【P a a S】 【I a a S】	『SaaS／PaaS／IaaS』の比較と企業IT部門の役割、貢献度、付加価値	SaaS、PaaS、IaaS…それぞれ、メリット・デメリットはあるが、従来型のシステム運用では色々な観点から対応しきれない事案が増加している。 3つのサービスを比較し、企業として導入することによる、貢献度を数値化することや、一般企業のIT部門の役割（立ち位置）、付加価値を見出せるような検証を行ってはどうか？
17	ゼロトラスト	『ゼロトラスト』の実現性検証と貢献度、付加価値の創造可否検証	『ゼロトラスト』概念が世に出て、10年ほど経過しているが、各企業もだいたい意識するようになったのではないかと？ 『ゼロトラスト』というと、エンドポイントセキュリティや、EDR製品導入…に紐付くイメージが強いが、製品よりの内容ではなく、ゼロトラスト概論を検証等することで何か得られるのか？企業にとっての貢献度とは？…的な研究もありではないかと？
18	メンタルサポート	ストレスチェックメンタルサポート	2020年度は、『コロナ禍』により仕事スタイル・生活スタイルが大きく変わり、テレワーク拡大、キャッシュレス決済拡大、消費傾向の変化、コミュニケーション不足…等々、関連するキーワードを挙げたらキリがないが、色々な意味で「ストレス過多」になってきているのも現状であると思われる。 ストレス度のチェックを通じて、何かメンタルサポートに結びつくような事が考えられないだろうか？